和歌山県地球温暖化対策情報誌

わおん通信

2017 冬号 vol.27

特集

「おもしろ環境まつり」開催

CONTENTS

P2－P3
県内地域の取組
秋晴れの中のエコ＆防止活動
太陽・風のちからで電気をつくろう
寒さの中でにぎわい啓発
松ぼっくりでクリスマス飾り
推進員 克ちゃんの
ああしたら こうなった 2（全6回）

P4－P5
特集 「おもしろ環境まつり」開催

P6 県情報
わかやまこどもエコチャレンジ
活動レポート展示

P7 COP23ダイジェスト
なるほど ザ・ワード

P8 INFORMATION

秋晴れの中のエコ＆防止活動

2017年10月1日
白崎海岸

[元気ゆら！ふるさとフェスティバル エコネット紀中]

今年も、第28回元気ゆら！ふるさとフェスティバルに出展しました。昨年までは6月開催でしたが、今年からは秋に変更され、地元名産の有田みかん収穫前の時期となりました。今回は、緑色の固くて小さな摘果みかんを使って、いろいろなゲームやクイズが用意されました。エコネット紀中のブースでは、温暖化防止を伝える家庭のエコ度アンケートや、COOLCHOICE賛同を呼びかけました。ブースを訪れた来場者は、15問のエコチェックに印を入れていきます。この日は100名を超える参加があり、複写式の回答用紙を手にした有田市の女性は「なかなか意識しにくい家族にこれを見せて節電に協力してもえるよう刺激材料にします」と嬉しそうに答えてくれました。

（県センター　臼井達也）

太陽・風のちからで電気をつくろう

2017年11月5日
金屋文化保健センター

[有田川町・子ども環境学習会]

有田川町主催のイベントで小学生23名が参加し、「太陽の光・風のちからでエコな電気をつくってみよう」をテーマとした工作教室を実施しました。はじめに、地球温暖化防止活動推進員から再生可能エネルギーの現状やオフグリッド型の照明設備設置の可能性について学習を受けたあと、太陽光で走るミニソーラーカーとペットボトルを使った風力発電機を作成しました。部品が小さくて四苦八苦する子供たちもおりましたが、完成して動くと歓声があがり、「自然エネルギーで発電するのはおもしろい、もっとやってみたい。」という意見も聞かれました。最後に、各自で「エコ宣言」を作成し、楽しい学習会を終えました。

（推進員　黒井成男）

寒さの中でにぎわい啓発

2017年11月19日
御坊　日高港

[エコネット紀中]

寒さに負けず。今年も恒例の「宮子姫みなとフェスタ」に出展しました。御坊日高港で開催されるこのイベントは、海の近くということもあ

り、海上保安庁の巡視船や、国土交通省のごみ回収船が接岸され、船内の見学ができます。また、ステージでは宮子姫時代行列やハワイアンフラ、よさこい踊り、更にはよしもとのお笑いステージと盛りだくさん。物産・PR啓発ブースなど約50の出展には対岸の徳島県阿南市の友情出展もあり、大賑わいの会場でした。エコネット紀中のブースでは、準備した啓発グッズ、アンケートも全て完了しました。寒風の吹く中で、有田チーム、御坊チーム5人で頑張った1日でした。

（推進員　樫村健）

松ぼっくりでクリスマス飾り

2017年11月19日
かつらぎ町産業まつり（かつらぎ公園）

[伊都・橋本地球温暖化対策協議会]

今年も「第29回かつらぎ町産業まつり」に出展しました。自然生態系の保全をPRしている伊都・橋本地球温暖化対策協議会では、地球温暖化防止の啓発と松ぼっくりを使ったクリスマス飾りや、木の実や枝を使ったクラフト教室を開催しました。前日に大雨が降り会場整備後の開催となりましたが、クリスマス前ということもあり当ブースは盛況で、50名を超える体験参加がありました。子どもたちからは、「かわいく出来た。クリスマスまで大切に飾ります。」との喜びの声も聞けました。今後とも市民の方が多く集まるイベントに出展し、地球温暖化防止に向けた啓発活動を地道に続けていきたいと思います。

（推進員　黒井成男）

推進員 克ちゃんの ああしたら こうなった

6回シリーズ

エコハウスにしたら カミさんがやってきた！ 2

＜「暮らしのエネルギー」を一から考える＞

家で消費するエネルギーには、電気エネルギー以外に、給湯や暖房で使用する熱エネルギーがあります。まず考えたのは電気エネルギーです。これは太陽光発電を導入することにしました。蓄電池はまだまだ高価だったので、電力会社と契約して昼間の余剰電力は売って夜は電気を買うことにしました。発電量が使う量を上回れば、電気はゼロエミッションになると目論みました。そのために台所はガスではなくIHを選択。ガスは化石燃料ですからね。照明はほぼ全てLEDに。当時は今ほどLEDの選択肢がなかったので、明かりについていろいろと研究しました。イメージはヨーロッパを旅した時に体験した電球の柔らかい明かりです。考えてみれば、日本に多い蛍光灯って太陽の光を模したものですよね。夜も太陽の光を頭の上から浴びるのは人類にとって蛍光灯が発明された最近数十年のことかもしれない、なんてことも考えました。それに当時のLEDはまだ照度が低かったので、同じ照度なら白色光の方が電球色より暗く感じるものなんです。だから、我が家は基本的に電球の色の明かりです。ただし、台所は白色光を選択、なぜなら電球色だと食材の色が分からないからです。

（次号に続く）

このコーナーでは推進員の方々の CO_2 削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。

特集 「おもしろ環境まつり」開催　2017年12月2日（土）

主催：おもしろ環境まつり実行委員会　　場所：和歌山ビッグウエーブ

さまざまな環境保全活動の今とこれからを知ってもらうため、県内外の組織が集うイベントが開催されました。子供も大人も楽しみながらエコ活動への理解や行動を促す「体験型イベント」の取組について紹介します。

おもしろ環境まつり会場（和歌山ビッグウエーブ）

◆５つのテーマ、36ブース、計44団体が集結

出展したのは、「環境」に関連のある民間企業、教育機関、公共団体、市民団体、そして県内の地球温暖化対策協議会・グループの全４４団体。それぞれ①地球温暖化防止②エネルギー③食と水④リサイクル⑤生物多様性の５つのテーマに沿った出しものが展開されました。

◆「ごみ・エネルギー・廃物利用」３つのゼロを目指した工夫

会場には、ごみ箱がひとつもありません。「ごみの持ち帰りにご協力を」と呼びかけ、主催者、出展者、そして来場者それぞれが、ごみをなるべく出さない意識づくりを行っていました。他にもこのイベントで掲げた「３つのゼロ」に向けて、会場づくりで大量の廃棄につながる部材を見直し、ふすまや障子を使ったパーテーションを採用したり、出展者が各々創意工夫で必要な物を持ち込んだりしていました。また、出展者は「エネルギーをできるだけ使わずに楽しめる内容」を準備し、会場全体の電力使用量を抑える工夫も行いました。

強力磁石で「空き缶さかな」釣り

◆手づくりの会場と2,811人のチャレンジ

会場全体は、子供の目の高さを意識し仕切りの高さをできるだけ抑えた開放的な空間。中央には１２本の竹を円錐型に組み上げて作った「ティピ」というテントオブジェが設置されました。また海岸に漂着した流木やプラスチックなどの海ごみを使ってユニークな空間を演出。ティピの前に設置されたミニステージでは、「和歌山のおばちゃん」こと桂枝曾丸さんと司会の県立那賀高校放送部の宮井菜月さんによる環境クイズや防災絵解き説法、また和歌山市一般廃棄物課による３Ｒ紙芝居なども行われました。会場2階部分に目を向けると、県内の小学生がチャレンジした環境絵日記「エコチャレンジ」全2,811人の作品が展示され、子供たちが実践した気づきや工夫から描かれた、力強いメッセージが記され、じっくりと見入る来場者の姿もありました。（関連記事は6ページ）

竹と流木でつくった「ティピ」

廃材の障子やふすまが活躍

◆来場者の反応と感想

会場には約1,500人が来場、さまざまな声が寄せられました。「昔のもったいない＝環境という認識だったが、今回参加して「楽しむ」を加えると面白さに変わった（男性60代）」、「今の使い捨てや便利さが溢れていることをあらためて感じた。（女性40代）」、「かつて、水路での生き物獲りは我々にとって当たり前の遊びだったが、今はそれができなくなっている。遊びの中から学ばせてくれたことが環境だったと思った。（男性30代）」、「環境へのイメージとして一人ひとりがやれることがたくさんあると感じた（女性30代）」、「環境と便利さの両立が知れた（女性10代）」、「自然の変化を感じている。気温が1℃上がるだけでどれほど大変なことかをあらためて感じた（女性40代）」、「不思議な体験やおもしろい体験ができとても楽しかった。またやってほしい（女性10代）」、「予想とは違うことを色々学べた（女性40代）」、「すてるとごみになるけれど、くふうでいろんなことができること、わかった（女性10代）」

◆持続可能な社会、和歌山の魅力と可能性

これまで、県内における環境イベントは、各地で毎年開催されてきました。そこで重ねてきた経験や工夫は今回のイベントを支える大きな柱となりました。そして、環境負荷への配慮や、より楽しんでもらうための工夫など、新たな試みも加わったことでこれまでとは違う印象になりました。また、県内の企業や団体が環境に対する意識を持ちつつ、次の担い手へバトンを渡そうとする力強い思いも会場にありました。一方で、環境に対する人々の意識は年々変化してきています。持続可能な和歌山をつくるためには、選択と行動の先に、自らの暮らしがあるといった「自分事」として捉えていける機会がますます必要になってきています。こうしたイベントを通じて、やがて「あたりまえ」と言える関係を築ける可能性を感じた１日でした。

写真提供：山下　仁 様／山下　まゆみ 様

出展団体（50音順）

エコネット紀中
エコネット紀南
エコランドいと・はしもと
NPO環境社会教育機構
関西電力(株)
紀の川市地球温暖化対策協議会
紀の川東洋台浜木綿クラブ
近畿大学生物理工学部
ゲストハウスikkyu
サスティナブルフォーラムわかやま
３時のかんぶつ屋さん
(株)島精機製作所
NPO市民の力わかやま
白浜エネルギーランド(株)
ストップ温暖化岩出の会
大栄環境(株)
(株)たがみ
（公財）天神崎の自然を大切にする会
南紀熊野ジオパーク推進協議会
NPOにこにこのうえん
（一社）日本自動車連盟和歌山支部
Pulse'jet Label
（一社）ビオトープ
(株)松田商店
満月屋
（公財）南方熊楠記念館
（公財）吉野川紀の川源流物語
（一財）和歌山環境保全公社
和歌山県環境衛生研究センター
和歌山県県民生活課
和歌山県教育センター学びの丘
和歌山県自然環境室
和歌山県シェアリングネイチャー協会
和歌山県３Ｒ推進隊
和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
和歌山県調査統計課
和歌山県農業試験場
和歌山県立自然博物館
和歌山市環境部
和歌山市社会福祉協議会
和歌山大学観光学部
和歌山大学災害科学教育研究センター
和歌山地方気象台
わかやま森づくり塾

平成29年度

わかやまこどもエコチャレンジ活動レポート展示

環境学習の一環として、県内小学４・５・６年生が、夏休み中にエコ活動（節水・節電・ゴミの削減）にチャレンジしました。その活動の様子をまとめたレポート（2,811点）を１２月２日（土）に和歌山ビッグウエーブで開催した「おもしろ環境まつり」で展示しました。

自作のコンポストや風力発電のような、大人も驚くような取組をまとめたレポートや、「節電」「節水」など家計にも地球にも優しい取組を紹介したレポート、雨水やお風呂の残り湯を植物の水やりに活用するようなり、日常生活の中で少し工夫をするだけで取り組むことのできるエコ活動をまとめたレポートなどがありました。

なお、県のホームページでも活動レポートを見ることができますので、是非御家庭でのエコ活動に役立ててください。

わかやまこどもエコチャレンジ　検索

COP23 ダイジェスト

2017年11月6〜17日ドイツのボンにおいて、フィジーを議長国としたCOP23（第23回、国連気候変動枠組条約締約国会議）が開催されました。アメリカが気候変動COPからの離脱を決めてから最初のCOPであり、世界中が動向に注目した会議でした。

COP23では、2020年以降の温暖化対策の国際的な枠組み「パリ協定」の具体的なルールづくりの交渉が行われました。パリ協定では、産業革命前からの世界の平均気温上昇を「2℃未満」に抑え、より野心的に「1.5℃未満」を追求するために各国が削減目標を提出し、それを維持する国内対策の義務を負っている内容で合意されました。さらに、５年ごとに削減目標の達成に対するチェックと、より大きな目標を計画することも決められました。

COP23では、まず、2020年以降のCO_2削減計画、各国が報告した排出量に対する国際評価の仕組み、市場メカニズム（二国間クレジットメカニズムJCM等）様々な指針の要素に関しての意見がとりまとめられました。アメリカ政府は離脱表明をしましたが、アメリカのいくつもの州や国民は「我々は、まだ（COPの）中に居る」と力強いメッセージを出し続けました。

COP23における日本の提案は、途上国における気候変動影響のリスクの見える化のための「透明性のための能力開発イニシアティブ(CBIT)」へ500万ドルを拠出すること、途上国に対して日本の高い技術を用いた（よりCO_2排出量の少ない）高効率な石炭火力発電や原子力発電の輸出、防災や農業分野等における（気候変動に対する）適応策の支援および適応ビジネスの推進などでした。CBITは高く評価されましたが、「適応」を前面に出し、CO_2削減を意味する「緩和」策の提示がほとんどなかったこと、さらにCO_2の削減目標値が小さいことなどから「後ろ向きだ」として、非常に低い評価を受けました。

日本の評価を下げてしまっている理由ですが、政府の失策だとみるのは乱暴です。というのは、最近、日本では、国民の環境対策への意識が下がっていることが危惧されるからです。COP23の会期中に私たち和歌山県センターが様々な世代の人400名に「COP23のことを知っていますか？」と質問したところ、「知っている」と答えた方は、たったの6名でした。大多数の人は「言葉すら聞いたこと無い」状態でした。「なぜCOP23のことを知らないのですか？」という質問に対しては、大半の方が「マスコミが報道しないから」だと答えました。実は、各マスコミとも、連日ほぼトップニュースで報道していました。この400名の大半は同じニュースで扱われた、ある横綱の行為に対することは皆が知っていました。質問した人達の属性が偏っていたための偶然かも知れませんが、愕然とする結果です。つまり、COP23の報道を無視しただけです。こうした日本国民の環境問題への関心のなさが、日本の評価が低かったことの根底にあったと考えることに大きな矛盾はないでしょう。

対照的に、COP23に参加したフィジーの12歳の少年Tomasi Naulusala君は演説の中で「どのようにするか？とか、誰がするのか？とかの話ではない。あなた方のそれぞれが何をするか？だ」と主張しました。耳の痛い話です。温暖化や気候変動の対策は、一部の人や国、企業、何かの技術革新だけで実現できるレベルは既に過ぎてしまいました。世界中の一人一人の行動こそが解決のカギです。考えてみて下さい。仮に、お孫さんやお子さんに財産（お金）を残せたとしても、気候変動による経済ダメージを残してしまえば、せっかく蓄えた個人財産すら豪雨災害とともに消えてしまうかも知れないのです。復旧のために税金もたくさん使われます。経済ダメージ、それも気候変動の怖さなのです。

（センター長　中島　敦司）

なるほど ザ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 ㉓

＊地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

化石賞

気候変動防止に関する世界のNGOの900団体が所属するCANインターナショナルが、気候変動COPの会期中に、発展的な交渉を妨げる国や地域に贈る不名誉な賞が化石賞です。「化石」とは化石燃料を指すとともに、化石のような古い考え方との揶揄も入っています。日本は、化石賞の常連国です。COP23では、日本が2017 〜 18年に東南アジアや南アジアへ石炭火力発電所や原子力発電所の輸出を目指すとしたことから化石賞を受賞してしまいました。日本は、日本の高い技術であればCO_2排出の小さい石炭火力発電が建設でき、気候変動防止に貢献できるとしています。しかし、それは古い石炭火力発電との比較であり、他の発電技術よりはCO_2排出量は大きいレベルにあります。また、煤塵やNOx、SOxなどの大気汚染も懸念されます。さらに、日本が輸出先の想定国としていたインドも中国も、石炭火力発電との決別を2017年になってから相次いで発表しています。いずれにせよ、日本の態度は、もう何年間も世界から批判されています。今こそ「世界標準」へと舵を切らなければならない時期が来ているのかも知れません。なお、世界最大の自然エネルギー発電大国は、ドイツやスペインではなく、圧倒的に中国であるという事実は、日本ではあまり知られていません。

イベント情報

COOL CHOICE賛同［個人/団体］募集

わかやま クールチョイス　検索

［参加募集］第14期 和歌山県地球温暖化防止活動推進員養成講座

新宮市会場	ゲストハウスikkyu	新宮市熊野川町宮井437	2018年1月27日(土) 13：30 ～ 17：00
和歌山市会場	和歌山県民文化会館 403会議室	和歌山市小松原通1ー1	2018年2月 4日(日) 13：30 ～ 16：30
紀の川市会場	創カフェ［山﨑邸］	紀の川市粉河8533	2018年2月17日(土) 13：30 ～ 16：30
有田川町会場	地域交流センター『ALEC（アレック）』	有田川町下津野704	2018年3月17日(土) 13：30 ～ 16：30

問合せ：和歌山県センターまで

◆わかやま「節電所」プロジェクト2017　表彰式

今回の「節電所大賞」が決定！
2018年2月4日（日）10：30 ～ 12：00

場　所：和歌山県民文化会館　403会議室
　　和歌山市小松原通１－１
問合せ：和歌山県センターまで
　　TEL 073-499-4734

◆岩出市民ふれあいまつり

2018年３月４日（日）10：00～16：00

場　所：岩出市総合保健福祉センター
　　岩出市金池92
問合せ：保健推進課
　　TEL 0736-61-2400
　　社会福祉協議会
　　TEL 0736-63-3246

ストップ温暖化
岩出の会
出店予定

募　集

第17回わかやま環境賞

表彰　わかやま環境大賞／わかやま環境賞／特別賞
県内に拠点を有し、環境保全活動に取り組まれている団体又は個人を対象としています。自薦、他薦は問いません。
募集期間：平成２９年１２月１日（金）～ 平成３０年３月１６日（金）［消印有効］
■問合せ：和歌山県環境生活総務課まで　TEL　073-441-2670

あなたの活動をサポート **わかやま推進員サイト**　わかやま 推進員　検索　イベント情報も随時更新

県センター通信

2017年４月から本格的に準備を進めてきた「おもしろ環境まつり」。実行委員、県職員、そして地域協議会のみなさまのご協力により実現できました。現事務局体制としては初のビッグイベントでした。この間、先輩推進員のみなさまから、さまざまなアドバイスをいただき、また老舗のイベントおもしろ科学まつりにもお手伝いとして参加。開催ノウハウをしっかりと学ばせていただき、なんとか無事に終えることができたという感じです。そして、課題や新たな作戦など、この経験によってたくさん得られたことを素直に喜びつつ、次回の開催に役立てていこうと思います。本年も激動の１年でしたが、決して緩めることなく引き続き推進員のみなさまの活動をサポートしてまいります。よろしくお願いいたします。

2017 冬号 vol.27

わおん通信

発行／和歌山県環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL：073-441-2670　FAX：073-433-3590
mail：e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集･お問合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL：073-499-4734　FAX：073-499-4735
mail：wenet@vaw.ne.jp

この情報誌は古紙配合率100%再生紙を使用しています。